

学習日誌

8月22日 (金)	講 師	太田司郎様 (座間市ふるさとガイドの会会長・座間市郷土資料館整備事業検討委員会元委員)
出席者数	79名	記録者 11年 8班 須藤直照
講 座 名	郷土学習講座3 座間の歴史文化財を学ぶ1 「学芸員のいる『座間市立郷土博物館』設立へ向けて」	
プログラム担当者	館・郷土グループ	
時 間・場 所	13:25 ~ 15:00 、 第1集会室	

【学習内容】

座間市の郷土史学習の環境は、現地での案内板/説明板、書籍、展示会/講演会/ツアーガイドの活動など充実していると感じていますが、資料館/博物館はありません。“市立郷土博物館”設立事業検討は数年前から行なわれています、これの現況等をお話して頂きました。

○博物館の役割は、

- ・文化遺産の収集・保存
 - ・教育（体験と、知識を共有する場）
 - ・展示と伝達（研究し、成果の展示、伝達）
 - ・コミュニティ（地域作り、生涯学習の拠点）
- ⇒これには、専任学芸員がいることが必要で重要。



○座間市の資料館の歴史と現状

昭和50年：“座間市歴史民俗資料館”を設置

平成8年：上記施設老朽化により解体

その後は、市公民館2階“歴史民俗資料室”および市内施設3ヶ所に分散して保管。

公民館の“歴史民俗資料室”は公開であるが、狭く通常は不燃状態。

○座間市の取り組み、主な経緯

平成17年：“地域を生かす郷土博物館を目指して”が提言される。

（“座間市にふさわしい博物館をめざして” 合同委員会 H11 設立）

令和3年：“郷土博物館整備に係わる提言”（座間市郷土資料館整備事業検討委員会 H25 発足）

令和7年：“座間市デジタルミュージアム”（市ホームページ）のオープン

○「デジタルミュージアム」だけで終わってはいけない、誰かが“郷土博物館”的必要性を叫んでいないといけない。学芸員のいる、“実物を見て、体験する場所”、“市民（子供から大人）の文化的コミュニティの場”となる「郷土博物館」の役割は大きい。

【感想】

太田さんの“郷土博物館”設立への熱い思いが伝わってきました。魅力ある街作りとして大事な事業の様に思います。みんなで関心を持ち応援して、設立を楽しみにしたいと思います。

■郷土学習講座終了後、【第2回ジャンル別会議】を実施。（15:10～16:00頃）

1. 「ジャンル別グループ会議と調べ学習」についての説明 門田プログラム委員長
2. 各ジャンル別グループに分かれて打合せ（於：第1、第3集会室、学習室） 以上